

第三級海上特殊無線技士試験問題

法規 20問 } 30問 1時間
無線工学 10問

法 規

(注) 次の各問題の記述について、正誤のいずれかを選び、答案用紙の答欄に正しく記入（マーク）すること。

- 1 船舶局を開設しようとする者は、総務大臣の免許を受けなければならない。
- 2 船舶局（義務船舶局を除く。）の免許の有効期間は、免許の日から7年である。
- 3 送信設備に使用する電波の質は、総務省令で定めるところに適合するものでなければならない。
- 4 第三級海上特殊無線技士の資格を有する者は、船舶局の空中線電力5ワット以下の無線電話で25,010kHz以上の周波数の電波を使用するものの国内通信のための通信操作を行うことができる。
- 5 第三級海上特殊無線技士の資格を有する者は、船舶局の空中線電力10キロワット以下のレーダーの外部の転換装置で電波の質に影響を及ぼさないものの技術操作を行うことができる。
- 6 船舶局は、いかなる場合でも、免許状に記載された通信事項の範囲を超えて運用してはならない。
- 7 船舶局は、緊急通信を行う場合を除き、他の無線局にその運用を妨げるような混信その他の妨害を与えてはならない。
- 8 何人も法律に別段の定めがある場合を除くほか、特定の相手方に対して行われる無線通信を傍受してその存在若しくは内容を漏らし、又はこれを窃用してはならない。
- 9 無線通信は、正確に行うものとし、通信上の誤りを知ったときは、その通報の終了後、一括して訂正しなければならない。
- 10 船舶局は、海岸局と通信を行う場合において、海岸局から使用周波数を変更するよう指示を受けても、至急漁況に関する通信を行わなければならないときは、その指示に従わなくともよい。

- 11 船舶局は、自局に対する無線電話による呼出しを受けたときは、直ちに応答しなければならない。
- 12 船舶局の無線電話による呼出しは、次の事項を順次送信して行う。
① 自局の呼出名称 3回 ② 相手局の呼出名称 3回
- 13 船舶局は、無線電話により自局に対する呼出しを受けた場合において、呼出局の呼出名称が不確実であるときは、応答事項のうち相手局の呼出名称の代わりに「誰かこちらを呼びましたか」を使用して、直ちに応答しなければならない。
- 14 船舶局による試験電波の発射は、他の無線局の通信に混信を与えないことを確かめた後でなければ、行ってはならない。
- 15 船舶局は、遭難通信を受信したときは、他の一切の無線通信に優先して直ちにこれに応答する等、救助の通信に関し最善の措置をとらなければならない。
- 16 船舶局の無線電話による遭難呼出しは、次の事項を順次送信して行う。
① メーデー（又は「遭難」） 3回 ② こちらは 1回 ③ 遭難船舶局の呼出名称 3回
- 17 船舶局は、「パン パン」又は「緊急」の信号を受信したときは、遭難通信を行う場合を除き、少なくとも1分間継続してその通信を受信しなければならない。
- 18 無線従事者が電波法に違反したときは、その免許を取り消されるか、又は3箇月以内の期間を定めてその業務に従事することを停止されることがある。
- 19 免許人は、電波法の規定に違反して運用した船舶局を認めたときは、総務省令で定める手続によりその船舶の所属する海岸局の局長に通知しなければならない。
- 20 船舶局には、免許状を備え付けておかなければならない。